令和４年度　自己評価・学校関係者評価　報告書

岐阜県立岐山高等学校　学校番号　4

Ⅰ　自己評価

<table>
<tr><td colspan="2">1　学　校　教　育　目　標</td><td colspan="3">教育基本法にのっとり、豊かな情操と強固な意志を備えた心身ともに健全な人物を育成するため、次の教育目標を定めてその実践を期する。
（１）「躍進岐山」の意気と誇りをもて
（２）全力を尽くして学業に励め
（３）礼儀正しく思いやりのある人となれ
（４）強健な心身をつくれ
上記の教育目標の達成を目指すとともに、理数科設置校としての本校に課せられた社会的使命や、生徒全員が進学を志していることに鑑み、その自己実現を図り、創造性に富んだ明るく活力ある学校づくりに努める。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2　スクール・ポリシー</td><td>『育てたい生徒像』
グラデュエーション・ポリシー（GP）</td><td>『生徒をどう育てるか』
カリキュラム・ポリシー（CP）</td><td>『どんな生徒を待っているか』
アドミッション・ポリシー（AP）</td></tr>
<tr><td>・社会の一員としての自覚と責任を持ち、リーダーとして地域や社会に貢献できる生徒
・強い心身をもち、困難をも克服できる生徒
・科学的な考え方と手法を身に付け、主体的・論理的に課題解決ができる生徒</td><td>・探究的な活動を通して、物事を考察、判断、表現する力の育成
・実践的な「知識・技能」が習得できるカリキュラムの編成と科学的視点と言語活動を重視した授業の実践
・諸活動を通して自己理解をし、自己実現ができる支援</td><td>・学業に主体的に取り組む意欲のある生徒
・主体的に自己を見つめることができる生徒
・校内外の活動に取り組む意欲のある生徒</td></tr>
</table>

3　評価する領域・分野	◇教務部
4　現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・予復習や宿題の不徹底等、学習の消化不良と定着不足により、学習に意欲的に取り組めない生徒が存在する。 ・自ら発展・応用的な学習に取り組む姿勢が弱い。
5　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇教科の授業や探究の時間等を通して「知識の獲得」と「知恵への昇華」を図ります。 ◇科学の視点と言語活動を重視した授業を展開します。 ◇岐山高校を認識してもらうため、広報活動を行います。
6　重点目標を達成するための校内における組織体制	・教務部及び学年会、教科会 ・探究部、進路指導部

7　目標の達成に必要な具体的な取組	8　達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1) より良い学習習慣の確立と基礎・基本の定着を目指します。	(1) 予習や課題、朝テストの事後指導の実施状況により判断する。提出状況や事後指導は100%を目指す。
(2) 学習の到達度に応じた指導を組織的に行い、応用力・実践力を育成して学力の伸長を目指します。	(2) 生徒による授業評価並びに家庭学習時間の調査より評価する。授業に対するアンケートでは５段階評価で4.0以上を目指す。
(3) 教科授業と探究の時間等の連携を図り、生きて働く「知識・技能」の習得を目指します。	
(4) 科学の視点と言語活動を重視した授業を展開するため、授業研究や教材開発を行います。	(3) 全教科で年２回、研究授業と研究会を実施し、研究実践の蓄積を行う。
(5) 全教科で取組についての分析や課題、方策の検討会を行います。	
(6) プロジェクトチームを編成し、中学生や保護者向けの高校説明会等を適切に実施して岐山高校を正しく認識してもらいます。	(4) アンケート等を利用して昨年との比較をする。

9　取組状況・実践内容等	10　評価視点	11　評　価
・各教科で「知識の獲得」と「知恵への昇華」について現状を分析し、具体的な取組を定めた。	・指導体制が機能し、評価基準を確認しながら取り組めたか。	A　[B]　C　D
・各教科で「科学の視点（根拠に基づいた思考や論理性）と言語活動を重視した授業の構築」をテーマに授業研究と実践を通して、教科指導力の向上を目指した。	・職員の共通理解の下、組織的に取り組めたか。	A　[B]　C　D
・学校案内を刷新した上で、中学生向けに高校見学会を実施した。	・参加者数、参加者からのアンケートによる評価。	A　[B]　C　D

12 成 果 ・ 課 題	○各教科で「知識の獲得」と「知恵への昇華」について現状を分析し、具体的な取組を定め、全校体制で取り組むことができた。 ○学校案内を生徒の意見を盛り込み刷新できた。中学生向け高校見学会（参加生徒数 713 名、R03 年度 648 名）を実施し、在校生の参加や模擬授業などの内容で実施した。アンケート結果からは本校に対する好印象を得た。 ▲躍進タイムの廃止や教育課程の変更など、本校の全体の仕組みを変更していく中で、今までの既成概念のとらわれず、新たな考え方で活動していく必要がある。今後も生徒に対してどのようなことができるのか模索し、また持続可能な形にするために、さらなる働き方改革の進めるなどの課題がある。	総　合　評　価 A　[B]　C　D

13　来年度に向けての改善方策案

・学力不振者に対する指導。各教科、学年会で生徒の状況について情報を共有し、ＨＲ担任、教科担任で働きかけをして、生徒一人一人に学習課題をもたせ学力の伸長を図る。
・現在の様々な状況を踏まえた上で、業務の運用の見直しを検討していく。特に全学年が新課程になる時期を見据えた上で、内規を見直すなど具体的な対応が必要となる。
・渉外部、事務部と協力しながら、仮設校舎に関わる内容について対応する。

3　評価する領域・分野	◇生徒指導部
4　現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・高校生としてのマナーや社会規範を身に付けさせる指導に関する項目は、保護者が 4.3、生徒が 4.3 と評価は高めである。 ・「いじめや差別を許さず、厳しく対応している」といういじめに関する項目については、保護者が4.4、生徒が4.6と高い評価であったが、保護者に関しては分からないと回答する割合が３割であった。「教育相談係の適切な指導」の項目についても4.4と評価は高いが、分からないも２割強であることから、個人情報への配慮をしつつ保護者や外部に対して情報を発信していく必要がある。
5　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇全職員の共通理解と連携に基づき、生徒一人一人を正しく理解し、基本的生活態度を育成します。 ◇支援を必要とする生徒に対して早期発見、早期対応に努め、組織的に対応します。
6　重点目標を達成するための校内における組織体制	・学年会や他分掌との情報共有と連携指導 ・ケース会議、特別支援会議等の専門家を交えた教育相談体制

7　目標の達成に必要な具体的な取組	8　達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1)身だしなみ指導、遅刻指導、情報モラル指導、交通指導等を通じて、全職員の共通理解のもと生活規律を整えます。	(1)生徒の身だしなみが整い、基本的生活態度や情報モラルが身についたか。
(2)予防的・啓発的生徒指導に努め、MSL活動やボランティア活動により生徒の自主的・自発的活動を支援します。	(2)生徒・保護者に対して啓発活動が活発になされ、積極的な生徒指導ができたか。
(3)生徒理解連絡会、ケース会議、特別支援会議、学校いじめ防止等対策委員会、専門家を交えた校内研修等で、支援を必要としている生徒について職員の共通理解を深め、支援方針を検証します。	(3)支援を必要とする生徒について、分析・検討を重ね、職員間で共通理解を図り、それを踏まえた対応ができたか。
(4)支援を必要としている生徒に対して、担任、学年会、特別支援教育コーディネーター、他の関係機関が連携して校内支援体制の充実を図り、組織的に対応します。	(4)生徒理解のための情報連携がなされ、未然防止、早期発見、早期対応がなされたか。

9　取組状況・実践内容等	10　評価視点	11　評　価
・身だしなみ指導、職員による声掛けや保護者との連携指導	・生徒の身だしなみをはじめとして生活規律が整ったか。	A　B　[C]　D
・予防的・啓発的生徒指導に努め、MSL活動やボランティア活動による生徒の自主的・自発的活動の支援。	・生徒・保護者に対して広く啓発活動ができたか。	A　[B]　C　D
・生徒連絡会議、ケース会議、特別支援会議等、専門家を交えた会議を通じた情報連携と指導。	・支援を必要とする生徒に軸足を置いた対応ができたか。	[A]　B　C　D
・支援を必要としている生徒に対して、担任、学年会、特別支援教育コーディネーターが関係機関と連携して校内支援体制の充実を図る。	・生徒理解のための情報連携がなされ、未然防止・早期対応ができたか。	A　[B]　C　D

12 成 果 ・ 課 題	○未然防止の観点から指導を心掛けており、普段からの声掛けや担任、学年団、保護者との連携指導等で規範意識の向上を目指している。 ○支援の必要な生徒に対応するため、カウンセリング・面談の機会を増やしたりすることで、合理的配慮を提供したり教育相談体制が整備されてきた。 ▲支援を必要とする生徒が常に存在していることを踏まえ、予防的な対応の充実を今後も続けることが大切である。また身だしなみ等、時代に合わせた指導のあり方やルールの見直しについても柔軟に対応する思考を持ち合わせていく必要がある。	総　合　評　価 A　[B]　C　D

13　次年度に向けての改善方策案

・生徒・保護者への情報発信と、早期支援の必要な生徒に対する職員の連携対応の継続、時流に合わせた生徒指導のあり方の考察を続けていくことが大切である。

3　評価する領域・分野	◇進路指導部
4　現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・大学入試関係だけでなく、模擬試験やその他進路情報について、適切な時期に情報提供が必要である。 ・生徒の学力を客観的に分析し、全体的な底上げを学校全体で取り組むことが課題である。学習時間の確保の方策について考える。
5　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒一人一人の能力・適性を十分に把握した自己実現達成を支援します。 ◇具体的な進路設計と計画の実行への支援をします。
6　重点目標を達成するための校内における組織体制	・探究学習の内容を含めた探究部との連携 ・学年会、教科との連携 ・進路LHRのための時間の確保

7　目標の達成に必要な具体的な取組	8　達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1) 探究活動の中に、進路研究や学問研究を積極的に取り入れることで、興味・関心の幅を広げ、社会生活の課題と学問を結び付けて考えられるよう支援します。それにより大学における学問及び研究活動に滑らかな接続を図ります。 (2) 生徒個々の進路や入試形態に応じて個別指導を充実するとともに期間を限定した柔軟な時間割運用によって効果的な学力向上を図ります。 (3) 模試等を利用し、個々の意欲や理解度を知り、それをもとに個に応じた学習活動ができる機会を提供します。 (4) 各学年で適切な時期に校外模試を実施することで、自分の現在の学力を全国レベルで把握し進路選択に役立てます。 (5) スタディーサポート（年１回）、進路希望調査（年２回）を実施して生徒の学習状況などの実態を把握し、それらを分析することで、ここに応じた家庭学習の充実や進路決定の支援をします。 (6) 各学年と連携を図り、学年集会や進路LHRを適切な時期に実施し、学年ごとの目標を確認することで生徒の進路意識の高揚を図ります。	(1) 各行事の有効性は、生徒の講座や講演会に対するアンケートにより評価する。 (2) 特編授業や小論文指導の生徒の取り組み状況、家庭学習期間の登校人数により評価する。 (3)申込人数や出席状況、また、通常授業における参加者の意欲の変化等の教員間の情報共有により評価する。 (4)模試事前学習において、各自が設定した目標偏差値を上回ることを目指す。学年平均偏差値及び度数分布で評価する。 (5)回答内容や家庭学習の変化や比較により評価する。 (6)進路希望調査内の進路意識に関する解答、スタディーサポートの結果を分析することで評価する。

9　取組状況・実践内容等	10　評価視点	11　評　価
・1年生から適切な進路選択をするために、「選択のしかた」講座を行った。 ・小論文や志望理由書作成に向けて、「文章の書き方講座」「小論文講座」を実施した。 ・模擬試験前に、目標設定や学習の取り組み状況の確認などを実施し、模擬試験への意識付けを行った。 ・保護者や生徒向けに、進路講演会を行った。	・進学への意識が高まる内容であるか。 ・生徒の取組状況はどうであるか。 ・学力の伸長が見られるか。 ・今後の活動にいかせる内容であるか。	A　[B]　C　D A　[B]　C　D A　[B]　C　D A　[B]　C　D

12 成果・課題	・進学指導重点校事業を利用し、1 年生から進路意識をもたせ、見通しをもった進路選択ができるよう 2 つの講演会を行った。また、3 年生では推薦入試や小論文を意識し、論理的文章の書き方講座を実施した。どちらも、今までにない内容であり、生徒の刺激になり、進路意識を高めることができたと思われる。 ・探究部と連携をして総合的な探求の時間の内容を進路と関連付けて実施できている。しかし、LHR の時間が少なく、大学入試に関わる情報提供をする時間が全く確保できていない。それに伴い、大学入試の仕組みや志望校選択の仕方など基本的な知識や、進路選択のモチベーションが低い。十分な時間を確保できるよう、学年会と連携をしていきたい。	総　合　評　価 A　[B]　C　D

13　来年度に向けての改善方策案

・1年生の段階から、大学進学に関わる基礎知識や進路意識向上のためのLHRを行い、学習意欲の向上や適切な進路選択ができるなど取り組みを行えるよう、学年会と連携を図る。
・文章力を身に付ける講座を学年進行で設定し、進路実現に結び付けられるようにする。

3　評価する領域・分野	◇特別活動部
4　現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生徒会活動に対する生徒の評価が昨年度より上昇した。学校行事に対する熱心な取り組みだけでなく、日頃から生徒の学校生活の改善のため、諸問題に真摯に取り組んでいる姿勢が評価されている。 ・ボランティア活動に対する評価について、大きな変化は見られないが、保護者のE評価が多い。募金などの取り組みについての広報活動が十分になされていない。
5　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒が主体となって学校行事の企画・運営にある。 ◇進学校として望ましい部活動のあり方を推進する。
6　重点目標を達成するための校内における組織体制	・生徒会執行部と、クラス役員によるクラスとの連携 ・特別活動部と他の分掌、各学年会、各部顧問との連携

7　目標の達成に必要な具体的な取組	8　達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1) 生徒が自ら考え、学校の様々な活動に積極的に参画できるよう、生徒会や各種委員会との連携を強化する。	(1) 生徒が、委員会やHR等の活動に主体的かつ協力的に取り組むことができたか。
(2) 各行事が円滑に実施できるよう、先を見通して、計画的な準備と運営を行う。	(2) 各行事の企画を計画的に行い、当日は滞りなく運営できたか。
(3) 各行事の終了後は、生徒や職員からのアンケートなどを通して意見を吸い上げ、速やかに見直しを行い、来年度の改善につなげるようにする。	(3) 評価すべき点や改善すべき点を見出すことができたか。
(4) 部顧問は、適切に休養日を設けるとともに、定められた時間内で最大限の効果が上がるよう、活動内容を検討する。	(4) 活動時間を厳守し、けじめのある活動を行うことができたか。
(5) 活動の観察に加え、家庭との連携を密にすることで、生徒の状況や考えを理解し、有意義な部活動となるように支援する。	(5) 保護者の理解・協力のもとで活動を行い、意見や要望には誠実に対応できたか。
(6) HR担任や教科担任と連携を取り、生徒の生活状況や学習状況を把握し、学業にもしっかりと取り組めるよう支援する。	(6) 部活動と学習活動の両立ができるよう、自らを律しながら活動させることができたか。
(7) 全校体制でボランティア活動に取り組み、対外的なＰＲを行うと同時に、地域に対する感謝の気持ちを育む。	(7) ボランティア活動に積極的に取り組み、その活動から学ぶことはあったか。
(8) クラスや部活動といった集団での活動を通し、仲間意識を高め、集団に貢献しようとする態度を育てる。	(8) 集団の中で、互いの立場や考えを尊重して活動することができたか。

9　取組状況・実践内容等	10　評価視点	11　評　価
・対面式と球技大会を昨年度に引き続き実施することができた。また、３年振りに文化祭を開催することができた。熱中症対策として運動会の実施日を１０月とし、種目などの検討を重ねたが、実施直前の感染拡大により、中止となった。	・行事の運営には柔軟に対応し、取り組む中で改善点を明らかにできたか。	A (B) C　D
・それぞれの部活動において、限られた時間の中での密度の濃い活動のあり方を追求した結果、東海大会出場や全国大会出場のほか、各種大会や発表会において成果を上げた。	・部活動と学習活動の両立に全校体制で取り組むことができたか。	A (B) C　D
・日本赤十字社への募金活動を夏と冬に行った。コンタクトレンズケースのリサイクル活動にも、昨年度に引き続き取り組んだ。	・活動に関して広く広報を行い、生徒・保護者に認識を深めてもらうことができたか。	A (B) C　D

12 成果・課題	○文化祭の実施にあたっては、コロナ感染と熱中症の両方において対策をとる必要があったが、取り組みの中で問題点を明らかにしながら綿密に計画し、当日の運営を進めることができた。その他、対面式や球技大会、芸術鑑賞などをコロナ以前の状態に近い形で実施することができ、概ね生徒に達成感や満足感を与えることができた。 ○部活動については、平日の活動のほか、休日や校外での活動においても感染対策を徹底し、各部で感染予防に努めながら活動を行うことができた。それでもいくつかの部で活動停止を余儀なくされる場合があったが、全体的には概ね充実した活動を行うことができ、成果を上げた。 ○募金活動に加え、コンタクトレンズの空きケースの回収活動にも取り組み、成果を上げた。 ▲今年度実施できなかった運動会の実施内容や形態については、抜本的な見直しが必要である。 ▲ボランティア活動についてのＰＲが不足している。	総　合　評　価 A (B) C　D

13　来年度に向けての改善方策案

・コロナ感染拡大のため実施できなかった運動会を、来年度の実施に向けて生徒会とともに企画し考えていく。
・生徒が安全に活動できることを第一に考え、引き続きコロナ感染や熱中症、活動中の事故などに対する注意を怠らない。
・ボランティア活動への取り組みを継続し、ＨＰでも取り上げ、校内や外部への発信を行っていく。

2　評価する領域・分野	◇保健厚生部
3　現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・学校での健康・安全への取組について、興味・関心の度合いが高くなっている。 ・安全・防災への理解度は高い。
4　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇新型コロナウイルス感染症予防の重要性を認識させるとともに、指導の徹底を図る。 ◇清掃と環境保護活動を推進し、美化意識と環境保全意識の高揚を図る ◇安全点検や命を守る訓練を通して、安全・防災に対する意識を高めるとともに実践力を育成し、事故防止の徹底を図る。
5　重点目標を達成するための校内における組織体制	・学校保健安全委員会　学校安全衛生委員会 ・生徒会生活美化委員会　保健委員会

6　目標の達成に必要な具体的な取組	7　達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1)・新型コロナウイルス感染症予防対策を最大限に発揮させる指導を徹底する。 ・健康チェック表・手指消毒・マスクの着用・除菌作業等、多岐にわたる対策の徹底を図る。 ・全職員が一致団結し、生徒が安心安全に学校生活を送れるようにする。 (2)・適切な清掃計画により、日常の清掃の徹底を図る ・委員会活動等を通じて、身近な環境への関心を高めるとともに、省エネルギーに努める。 ・私物を各自に与えられたスペースに収納することを徹底する。(職員の配置) ・安全点検を大掃除時に実施し、施設･設備の整備に努める。 ・ワックスがけの工夫。 (3)・命を守る訓練や防災についての意識調査や講話などを防災教育と位置付け実施する。 ・体育的諸活動時における事故防止には万全を尽くすように適切な指導助言を行う。	(1)県のガイドラインをしっかりと理解し、徹底した予防対策を行う。 毎日の健康チェック表の確認、手指消毒指導の徹底、毎日の除菌作業、教室換気を行う。 ・健康チェック表の提出率を１００％に近づけるように全職員で徹底する。 ・喫食時のマナーについて巡回指導する。 (2)日常の清掃活動において清掃が確実に行われているかをチェックする。 冷暖房使用時の各クラスの温･湿度や、二酸化炭素の濃度測定状況を確認し、エアコンの正しい使用や暖房時の適正な換気がなされているかをチェックする。 教室・廊下の私物の整頓状況で評価する。 不具合に対して速やかに対応する。 (3)災害時の対応や現状の知識・意識をアンケートなどで調査し訓練の参加状況と合わせて評価する。 諸行事中に発生が予測される事故についての対応を事前に準備し周知徹底する。

8　取組状況・実践内容等	9　評価視点	10　評　価
①　新型コロナウイルス感染症の予防対策の徹底を図った。	①　新型コロナウイルス感染症の予防対策への取り組み姿勢について	[A]　B　C　D
②　委員会活動や担当部署の生徒・教員に環境美化担当を配置した。 掃除用具を購入した。ワックスがけを２日で実施。	②　委員会での活動状況の把握、校内巡視での確認　掃除用具点検	A　[B]　C　D
③　安全点検の結果に素早く対応した。	③　迅速な対応	A　[B]　C　D
④　学校防災への取組を行った。	④　取り組み姿勢	[A]　B　C　D

11　成果・課題	総　合　評　価
○新型コロナウイルス感染症の予防対策に対して生徒・職員の取り組みはほぼ良好であった ○清掃活動にきちんと取り組み、美化意識の向上とごみ減量化につながった。 ワックスがけがスムーズに実施でき、校内美化につながった。 ○命を守る訓練がきちんと実施できた。	A　[B]　C　D

12　来年度に向けての改善方策案

・生徒・職員が一体となって、新型コロナウイルス感染症に対して、健康活動への意識・行動をさらに高めさせるよう努める。

・防災リーダーとともに防災意識を高め、自ら考え行動できるよう「命を守る訓練」や啓発活動を工夫する。

・仮設校舎移転五向けて安全計画を作成する。

3　評価する領域・分野	◇探究部
4　現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・保護者や生徒対象アンケートで「外部講師の講演や様々な体験活動等、授業以外の学習の機会を適切に計画している」の質問では、平均が保護者、生徒とも4.4以上前年度と同水準の良好な結果が得られている。生徒対象アンケートの「「探究の時間」が有意義である」という質問についても、平均4.0と前年度を維持しており、取組の目的や活動を通して身に付く力についての理解が深まっていると考えられる。
5　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇科学的な視点で問題を発見し解決していける力を培い、他者と協働し粘り強く取り組む姿勢を養います。 ◇外部と連携した教育活動を行い、キャリア教育や理数教育を推進します。 ◇探究学習の時間や各教科との連携を進め蔵書の充実と利用を図ります。
6　重点目標を達成するための校内における組織体制	・探究部 ・学年主任、探究活動学年担当を含む探究部会

7　目標の達成に必要な具体的な取組	8　達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1)「探究の時間」などを活用した探究的な活動を企画・運営し、主体的・協働的な取組で課題解決を目指し、結果をまとめ発表することで論理的思考力、プレゼンテーション能力を養います。	(1)取組ごとに自己評価や担当者による到達度評価、年度末に評価テストを実施します。
(2)理数科対象の野外実習(フィールドワーク)や課題研究等で論文作成や発表を通して、実験・観察技能や科学的思考力、プレゼンテーション能力を養います。	(2)取組ごとに自己評価や担当者による到達度評価、年度当初と年度末に評価テストと保護者アンケートを実施します。
(3)課外の時間を活用した研究者との対談や、希望者を対象とした特別講座を企画・実施し、その結果をレポートにまとめることで、論理的思考力、プレゼンテーション能力を養います。	(3)取組ごとに参加者アンケートや自己評価を実施します。
(4)全校生徒を対象に、先端研究者の講演会、企業や研究機関への訪問、参加体験型研修を企画・実施します。	(4)参加者アンケート、自己評価、講師による評価を受けます。
(5)外部機関と連携して視野や価値観を広げ、自己の将来や社会との関わりを考える取組を実施します。	(5)参加者アンケート、自己評価、担当者による到達度評価を行います。
(6)自然科学系部活動を中心に、大学や企業の研究者と連携した研究活動、岐阜市と連携した中学生対象の講座など理数教育の拠点校としての役割を果たします。	(6)研究成果をまとめ、各種コンクールや全国規模の大会へ積極的に参加し、外部評価を受けます。
(7) 探究の時間や各教科での利用のための図書を充実させます。	(7)「探究の時間」の担当者・各教科からの要望への対応及び新着図書の紹介が遅滞なく行われているか。

9　取組状況・実践内容等	10　評価視点	11　評　価
・「探究の時間」に外部講師を招聘し、論理的思考力や表現力等を養う講座を実施した。	・自己評価のうち満足度(五段階評価) リサーチフォーラム 3.9	A [B] C D
・理科、数学科と共に理数科1年「理数探究基礎」、3年「課題研究」を実施した。	看護講座 5.0、AI講座 4.6、 教職4.7、メタバース 4.4	A [B] C D A [B] C D
・リサーチフォーラムやゼミを企画・実施した。	プログラミング講座 5.0	

12 成 果 ・ 課 題	○リサーチフォーラム、ゼミでも対面とオンラインを使い分け、多様な講師の先生方による講座を実施することができ、参加生徒の満足度も高かった。 ○普通科１年生では今年度より２年間の探究の流れを意識したプログラムを実施。２年生ではSDGｓをテーマにクラスごとの探究的な活動を進めた。 ○「理数探究基礎」で観点別評価のためのルーブリック等の整備を行った。 ○コロナ禍の中でも図書館の利用は進んでいる。図書委員もよく活動している。 ▲もっと図書委員・図書館の活躍の場を設ける。	総　合　評　価 A [B] C D

13　来年度に向けての改善方策案

・現行の指導要領実施のもとで理数科「探究の時間」が教科「理数」となるなど、探究的な活動を取り巻く状況は大きく変化している。本校が長年培ってきた取り組みの良さは継続しつつ、講座の在り方（講義形式の見直しや生徒主導の企画形式）、学校誌「百々ヶ峰」の位置づけや内容の検討など、従来の分掌業務の見直しを進め、ていきたい。

3　評価する領域・分野	◇渉外部
4　現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・ＰＴＡ執行委員会(年間３回)、同窓会常任理事会・理事会(年間各２回)を通じて役員の方々より、様々なご意見をいただいている。 ・ＰＴＡ役員及び保護者や同窓会役員と学校との関係は良好である。
5　今年度の具体的かつ明確な重点目標	１家庭と学校との情報伝達を円滑にし、一層の連携を図る。 ２ＰＴＡ役員及び保護者相互のより良い人間関係の構築に努める。 ３ウィズ・コロナ時代のPTA活動を考える。
6　重点目標を達成するための校内における組織体制	・渉外・ＰＴＡ運営は４名、同窓会運営には７名の本校ＯＢ職員が担当している。

7　目標の達成に必要な具体的な取組	8　達成度の判断・判定基準あるいは指標
（１）家庭と学校との情報伝達を円滑にするために、ＰＴＡ会誌を発行する。 （２）ＰＴフォーラムをＰＴＡ役員を中心に企画し、参加した保護者が有意義な時間を過ごすことができるよう工夫する。 （３）ＰＴＡ役員と学校職員との協力により、ＰＴＡ総会及びＰＴＡ執行委員会を開催する。 （４）県高Ｐ連総会・東海高Ｐ連総会・全国高Ｐ連大会への参加を通じて、役員相互の交流を深める。	（１）学校からの情報を伝えるとともに、保護者の活動の様子を紹介することができたか （２）保護者は満足したか。参加人数は増えたか。 （３）学校と保護者相互の意思疎通が図れたか。 （４）参加した役員相互の親睦が深まったか。他校の取り組みを本校の活動に生かせたか。

9　取組状況・実践内容等	10　評価視点	11　評　価
・ＰＴＡ執行委員会の開催 ・ＰＴＡ会誌発行 ・全国高P連石川大会現地及びonline参加 ・同窓会常任理事会・理事会の開催	①　ＰＴＡ役員との連携	A　[B]　C　D
	②　同窓会役員との連携	A　[B]　C　D
	③　渉外担当者相互の連携	A　[B]　C　D

12 成 果 ・ 課 題	○コロナウイルス感染予防に努めつつ、ＰＴＡ総会及びＰＴフォーラムを開催できた。 ○ＰＴＡ会誌を予定通り発行することができた。 ○全国高P連石川大会に４名が現地参加できた。また、希望する役員がonline参加できた。 ○２回の同窓会常任理事会・理事会を開催した。また、同窓会長には何度か学校に来ていただき、意見交換ができた。 ▲県高Ｐ連合会定期総会・県高Ｐ連岐阜地区支部連絡協議会がonline開催となり、役員の交流と研鑽の場が減った。 ▲役員相互の交流の機会が減ったことで、ＰＴＡ役員が中心となって活動することが困難になった。	総　合　評　価 A　[B]　C　D

13　来年度に向けての改善方策案

・感染予防に留意したＰＴＡ活動が展開できるよう、執行委員会の開催方法を検討し、ＰＴＡ行事を精選する。

・ＰＴＡ役員の相互交流の場を増やすことを検討する。

3　評価する領域・分野	◇１年学年会
4　現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生活や学習について、中学校との大きな変化に戸惑いながらも、それぞれに工夫し、少しずつ自分のペースややり方を身に着けて、充実した高校生活を送っている生徒が多い。 ・文理、科目選択のための進路研究を経て、志望分野は絞りつつあるが、具体的な志望校や目標数値までは設定できていない生徒が多い。 ・学校行事等に積極的に取り組み、楽しみながら活動することで、充実感を感じられる生徒が多い。
5　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇何事にも前向きに捉え、実生活や実社会に活かせる資質や能力の育成に取り組みます。 ◇学習活動中心の生活習慣を身に着けさせるとともに、良識あるモバイル機器の扱い方について指導します。
6　重点目標を達成するための校内における組織体制	・教務部、進路指導部、生徒指導部等、各分掌との連携 ・保護者及び他学年との共通理解

7　目標の達成に必要な具体的な取組	8　達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1)集団における自身の役割や立場を理解し、責任ある行動が取れるように指導します。 (2)礼儀正しく、明るく活力に溢れた学校の雰囲気づくりを目指して、教員からの声掛けを通して、校内での積極的な挨拶を指導します。 (3)授業と家庭学習を中心とした学習習慣の確立について、学年団及び教科担任と連携して指導します。 (4)自身の将来像を考えさせる機会を定期的に設け、進路実現に向けた生活習慣の確立を目指して、進路指導部と連携して指導します。 (5)モバイル機器の適正な使用について、生徒指導部及び家庭と連携して指導します。	(1) 年度末の自己評価や反省、担当職員による評価をもとに、達成状況を判断します。 (2)来客者からの印象や評価を参考にします。 (3)諸調査を行い、学習に対する意識や意欲、学習時間により評価します。 (4)課題の提出状況や、外部模試の結果などにより評価します。 (5)日常生活における使用状況を観察するとともに、保護者懇談会等で家庭での様子を聞き取り評価します。

9　取組状況・実践内容等	10　評価視点	11　評　価
・課題テストや定期テスト、進研模試の結果等を分析・理解させ、毎日の学習習慣の大切さを考えたうえで、日々の学習に取り組ませる。	・各種テストの結果等を踏まえて、学習到達度を分析し、学習指導の成果を見る。	A　[B]　C　D
・ＨＲ活動の時間、担任との面談等を通して、学習、授業、部活動の在り方、目的、意義を考えさせ、自分自身を振り返らせることで、改善を図る。	・表情や行動など、普段との変化を細やかに観察する。 ・2者懇談、3者懇談で生徒と保護者の状況を把握する。	A　[B]　C　D [A]　B　C　D

12 成果・課題	○高校生活に慣れ、安定したリズムをつくりあげることができた。学校生活全般において落ち着いた態度で取り組むことが出来、感染防止のルールを守り生活できている。 ○正副担任、教育相談、部顧問、外部カウンセラーが連携し、生徒や保護者の悩みや困りごとに細やかに対応することで、安定した学校生活につなげる取り組みができている。 ○各種行事が実施できる喜びを感じながら、充実した活動ができた。 ○モバイル機器について、日々の啓発活動や、不適切な使用があった場合の個人指導を通じて、マナーを意識した使用の仕方に気を配ることができた。また、授業内での活用やアンケートの回答など利用の機会が増え、活用の技術に向上が見られる。 ▲進路研究による具体的な目標を意識した上で、継続的な学習習慣を身につけることの大切さを理解させる。	総　合　評　価 A　[B]　C　D

13　来年度に向けての改善方策案

・進路に関する具体的な情報を効果的に提示し、各自が現実と向き合い、しっかりと分析し、前向きな取り組みに結びつけることで、達成感を感じながら意欲的に学習に向かえる姿勢を育てたい。助け合ったり、切磋琢磨できるような、周囲との関わりを積極的に持たせたい。

3　評価する領域・分野	◇２年学年会
4　現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・授業の水準や宿題の質、量に慣れるとともに、課外活動にも積極的に参加できるようになった。 ・模試の結果から、生徒たちが着実に力をつけている生徒がいる中で、下位層の増加が課題であり、授業の充実を図り、主体的に取り組む姿勢を育成していくことが必要である。
5　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇基本的学習習慣・基本的生活習慣を質的に向上させ、誠実に物事に取り組む心を育てます。 ◇自ら考え、行動できる主体性を育てます。
6　重点目標を達成するための校内における組織体制	・教務部、進路指導部、生徒指導部等、各分掌との連携 ・保護者及び他学年との共通理解

7　目標の達成に必要な具体的な取組	8　達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1) 学年集会やＬＨＲで身だしなみ指導、学習に向かう姿勢についての指導を行い、進路指導部・生徒指導部とも連携し、生徒の規範意識を高め、基本的学習習慣・基本的生活習慣の質的向上を目指します。	(1) 状況を観察し、定期的な調査も行いつつ、必要な指導を行い、状況の変化を踏まえて判断・評価します。
(2) 課題・宿題に対して粘り強く考え、分からないところは、自ら調べたり質問したりして、「誠実に探究する習慣」を育てます。	(2) 提出物の状況や学習・探究活動への取り組みを評価します。
(3) 係や清掃、ボランティア、委員会活動、学年行事等を通じ、公共性や協調性、物事に誠実に取り組む心を養います。	(3) 行事に対して誠実な心や思いやりの心を持って取り組めているかを評価します。
(4) 文化祭や球技大会、修学旅行等の行事に取り組む中で、個々の存在を尊重しつつ、仲間を思いやる心を養います。	(4) 生徒との懇談やアンケート調査により、達成感と成就感を判断します。
(5) 大学情報、学部・学科情報の収集に努めさせ、各自が自分に適切な大学を考察します。	(5) 進路情報を生徒に与えつつ、懇談を通じて情報交換し、進路目標と実際の取り組みが適切か判断します。

9　取組状況・実践内容等	10　評価視点	11　評　価
・進路希望調査をふまえ学習時間調査を実施し、学習時間と進研模試の結果の相関性を調べ、学習習慣の大切さを考えさせる。	・各種テストによる学習到達度との関連性を調べる。学習習慣の定着を毎週確認して生徒の状況を把握する。	A [B] C D
・様々な生徒の状況に対応し、充実した高校生活になるよう学年団でサポートする。	・教育相談部としっかり連携して、保護者と共に、個に応じた指導を行う。	[A] B C D
・行事やリサーチゼミ等への積極的な参加を促すことで、経験を深めさせる。	・アンケート調査により、達成感と成就感を判断する。	A [B] C D

12 成 果 ・ 課 題	○教育相談、教務部と連携しながら様々なケースに対応することができた。今後も個々への対応を、学年会中心に他分掌と協力して適切に進めていきたい。 ○進路関係の学年集会を行った。河合塾から外部講師を招き、進路講演会を実施することにより、生徒は自分の進路について深く考えることができた。 ○球技大会、文化祭、修学旅行等の行事が成功するように、役割を意識した活動と声掛けで、成功を収めることができた。	総　合　評　価 A [B] C D

13　来年度に向けての改善方策案

・受験生としての自覚を持たせるとともに、学力の向上を目標に適切な指導を行う。学習内容の質を上げる指導に重点を置くことで、自ずと学習時間が増えていくように指導する。

・保護者と密に連絡を取り情報を共有することで、学習面のみならず、進路指導や精神的サポートなども連携して行う。生徒との信頼関係を深め、より大きく育成する。

3　評価する領域・分野	◇３年学年会
4　現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・進路希望調査（学習状況リサーチ）より、学習に対する意欲はあり、進路実現に向けて意識は高く、良好な姿勢で臨んでいる。 ・学習の取り組みにおいて、積極性にやや欠ける部分や、課題に対する取組が甘い部分がある。
5　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒一人一人の進路目標の実現と社会に貢献できる人材の育成に努めます。 ◇生命を尊重する心を育み、人権尊重の意識を醸成します。
6　重点目標を達成するための校内における組織体制	・学年会、教務部、生徒指導部、進路指導部、特別活動部との連携 ・各教科会

7　目標の達成に必要な具体的な取組	8　達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1) 進路実現に向けて確かな学力を身に付けられるよう学習指導を強化します。 (2) 校外模試や朝テスト課題実力テスト等を通じて、生徒個々の能力・適性を的確に把握・分析し、生徒の進路目標の実現に努めます。 (3) 生徒の選択肢の拡大や視野を広げるため、適切な情報収集と情報提供に努めます。 (4) あらゆる機会を通じて生徒と接する時間を増やし、生徒理解に努め悩みや不安の早期発見に心掛けるとともに、基本的生活習慣を身に付けさせます。 (5) 職員全体でいじめは絶対に許さないという強い姿勢で臨み、生徒に対して公正かつ公平な態度を示し、風通しの良い、個を尊重する心を育成します。	(1) 校内でのテスト、外部模試の結果により評価します。 (2) 生徒個人が幅広い視野のもとに進路設計ができ、能力が伸長し、自らが納得いく進路実現ができたか判断します。 (3) 探究活動などを通して、自分の考えを適切に論述、発表、討論するなどの能力を身に付けることができているか判断します。 (4) 二者懇談、保護者懇談、教育相談等で情報を共有できたかで評価します (5) 授業規律の確立、場に応じた挨拶、端整な身だしなみを校内、保護者、関係機関の連携により、身に付けているか判断します。

9　取組状況・実践内容等	10　評価視点	11　評　価
・教育相談週間に限らず、担任が進路懇談をするなどして信頼関係の構築に努めた。 ・模試の結果を生徒に提示し、進路への関心を高め、意識をもたせる指導に努めた。 ・探究活動を通して、自己の進路に向き合い、主体的に活動する場を設けた。	・懇談を通して生徒の状態把握と進路希望決定を行えた。 ・得られた情報をもとに、積極的かつ継続的に学習に取り組むことができた。 ・自己の進路への関心が深まり、主体的に行動する生徒が増えた。	[A] B C D A [B] C D A [B] C D

12 成果・課題	○場面に応じた行動がとれ、責任感や人権意識が高まってきた。 ○自らの将来に繋がる大学を模索し、情報を集め、担任からのアドバイスに耳を傾け、進路目標を定めた。 ○進路への意識は高くなり、学習時間も確保できた。受験へ向かう本気の姿勢が見られ、自ら進んで取り組むことができるようになった。	総　合　評　価 A [B] C D

13　来年度に向けての改善方策案

・受験指導において、面談等を繰り返しながら一人ひとりの把握に努める。模擬試験を有効に活用し、個々の生徒に合った適切な指導を行う。進路指導部と連携し、生徒・保護者が納得できるような進路選択ができるように、大学・入試の情報を生徒に提供し、進路実現につなげる。妥協による進路決定ではなく、最後まで諦めない受験指導を目指す。

・大学受験に向けた意識を高揚させるための方策を、時代の変化と生徒の状況を踏まえながら再考する必要がある。

Ⅱ　学校関係者評価

実施年月日：令和５年２月１０日

【意見・要望・評価等】

（１）分掌からの自己評価について

【教務部・進路指導部】

意見１：教育課程について、来年度から今年度よりも１単位減っている。来年度は今年度より放課後の時間が週１回長くなることになるが、学力に応じた補習が実施される計画していることはよい。

【生徒指導部】

意見１:学校をよくする会のアンケートの中でアルバイトを自由にしたいという要望もあるが、学業優先は当然である。アルバイトを登録制とし、成績が下がれば禁止になるというルールの学校もあるので、参考にしてみてもよい。

【探究部】

意見１：探究活動の授業参観では生徒が自分の意見を伝えたいという熱意が感じられる。また、以前は紙で行っていたのがＩＣＴを積極的に活用するようになっていることで質を高めている。

意見２：２年生が同じ学年の生徒に発表する時間の後に、１年生にも発表する時間を確保しているが、是非本校の生徒に限定しないで、中学生にも発表を見せて欲しい。

【特別活動部】

意見１：修学旅行の行先は、自分の目で実際に観察したり、体験する機会を増やすことも考慮したほうがよい。

意見２：探究活動などもとても頑張っているので、修学旅行でも探究活動としての企画があってもよい。

（２）学校の広報活動について

意見１：岐山高校だよりは毎号楽しみにしている。また、地域のボランティア活動にもぜひ参加して広報に載せたほうがよい。

意見２：制服の選択制やベトナムとの交流のなど記事を、新聞で目にすることができ、多くの人が読んでいる。学校の活動の様子や海外に目を向けていることなどを知ることができる。